ST '54 ORIGINAL MODEL VINTAGE / '64 ORIGINAL MODEL OLDIES

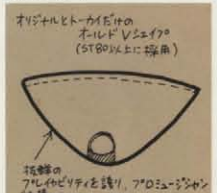
不滅の名作として君臨し続けるSTシリーズ、
新たな衝撃を秘めて……。

圧倒的な内容と厳格なサウンドコンセプト、
パーフェクトレプリカモデルの深遠なポリシー。

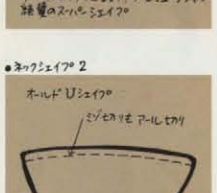
●ヘッドストック（STヴィンテイジモデル）

●ヘッドストック（STオールディモデル）

●ネックシェイプ1



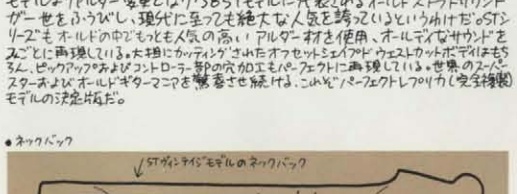
●ネックシェイプ2



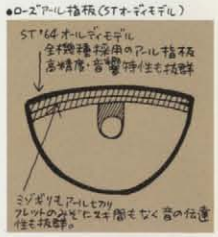
●ストリングガイド

●ネック：'81ニュースペックより新たにSTシリーズの顔が2つに生まれかわった。まずは発表と同時に爆発的な人気と支持を獲得、オールドモデルホンダの名を欲しいままにした'54ヴィンテイジモデル。そして第2のオールドモデルとしてローズセンセーションを巻きおこした'64オールディモデルの2タイプだ。●'54ヴィンテイジモデル：①ヘッドストックはトーカイの自信作。全体のフォルム、フニッシュ、ネーミング、ペグ等すべてに'54ストラトの熱い試験をビンヤストに伝え、他のオールドモデルとは比較にならないほどパーフェクトな仕上がりを見せている。これがほんとうのワロージョンヘッドなのだ。ヘッドデザインが同じでも手を抜いたフニッシュはいただけない。微妙なフィーリングを左右するギターフリークなら、なおさら気になるところだ。ストリングガイドはオールド'54タイプ丸型！今、格調高いヘッドストックにシャープなアクセントを与え、技巧的なペグハッド・フーリングを誇っている。②ネック仕様は全技種メイプルロックメイプル（ピュースネック、ネックのニギリ形状もVシェイプ＋UシェイプのW2タイプが用意されていながらあれい。Vシェイプは'54ストラト特有のグリップ感覚を見事に再現した俗にいう角ネック。長時間のプレイにも疲れを感じさせず、フィンガーワークもスムーズ。ハイテクのミュージシャンみ気に入りのスーパーシェイプだ。Uシェイプも深意性バツグン。よく手になじみ出るのVシェイプとは一味違ったニギリ形状で人気が高い。自分の好みおよびスタイルに、応じてセレクトしてほしい。●'64オールディモデル：ヘッドストック&ネック共に'64ストラトを忠実に再現しまゆかわったニューネック仕様。●ハードロックメイプルにローズ指板をラミネイト。この際トラスロッドはネックバックがこ？ではなくローズ指板の下にセットされたため'54ストラトモデルに見られたヘッドストックのブラウンポイントおよびネックバックのアクションストライプがなくなっている。さらにローズ指板は'64オリジナルモデルと全く同じマテリアルのラウンドのついたアール指板を採用。音響特性にも優れ、技術的にも精度の高いスーパーネックを見事に再現。ローズセンセーションをまきおこした。①ヘッドストックは'54ヴィンテイジモデルと同様、保証番調あふれるスモールヘッドストック。前の面としも完璧で、ストリングガイドは平行2ウェイタイプが！ケ。'60年代のフーリングをパーフェクトにアリかしたニューフェイスだ。②ネックは全技種メイプルにローズ指板をラミネイトしたいわゆるローズネック。先ほどもふれたがアール指板を採用。ちなみにトラディショナルストラトモデルのネックの歴史についてかしふれておくと'54年までは全てメイプル（ピュースネック仕様）。'60年から（微妙にいうと1959年中頃から～）ローズ指板ネック仕様になる。そしてローズ指板のラミネイト方法も'60～'62年まではフラット指板。'63年からアール指板がそれぞれ張り合わされるようになった。STシリーズが特に技術的にもむずかしいアール指板ネックを採用した理由は、フラット指板にくべ持続面積も大きく音響特性および強度的にも優れているからだ。シェイプもVシェイプおよびUシェイプの2タイプ。ローズフィンガーボード独特のなめらかなフィンガリングとメロ・ウンドを実感してほしい。●フレットムーブ：フレット仕上げも'54メイプル（ピュースネックおよび'64ローズ指板ラミネイト・メイプルネック共に完璧だ。まずフレットが打ちこまれるミゾは、フレットの足（タグと呼ぶ）が入る深さに合わせて1本1本切られており、ハードなプレイにもガッチリと応えることはもちろん、ネックの剛性、音の伝達性が一段と向上した。トーカイSTシリーズならではの細かい配慮だ。●ロゴマーク：トーカイのゾンギー・サウンドのロゴマークはデカールなど塗装まくの上に貼りつけたもの。貼りつけ方法も特殊でトーカイ技術で、時が経つほどにオールドと同じ味わいが発揮される。ちなみに、ボディ上のロゴマークはトーカイ・ジャンバッドの技術のパワフルフーリングは、まさにオールドモデルのキンブ。●ボディ：今ではわかり有名になってしまったNCルーターが、その真価を最大限に発揮している。そんなボディカロエには考えられなかったトーカイだけのウルトラC的発案のひとつだ。立体まげをもくまなくカロエし、正確無比を誇る「3次元ルーター」。そして長いギター作りによってうちかわれたクラフトマンの技術、製作経験がプラスされ、もう完璧といっていいほどだ。特に「ボディ・ネックアップルヘッドの宿命」であるとされていたネックジョイント部はまばるしい仕上がりをみせる。まさにセットネックに優るとも劣らない完成度だ。まだ、ほかのオールドコピーモデルとよくよく比較してもらいたい。その違いがはっきりとわかるはずだ。そして特筆すべきはついにトラディショナルモデルの代表的ボディ材、アルダーを全面的に採用。オールドストラトサウンドの再現に大きく貢献していることはもちろんオールドギターマニア垂涎のマテリアルだ。また、今後はボディ材の歴史についても若干ふれてみると、デビューモデルの'54STモデルはアッシュでスタート。'56年モデルよりアルダー変更となり'58STモデルに代表されるオールドストラトサウンドがデー世をふうびし、現代に至っても絶大な人気を誇っているいわゆるオ。STシリーズもオールドの中でもっとも人気の高い、アルダー材を使用、オールディなサウンドをみごとに再現している。大胆にカッティングされたオフセットシェイプドウェストカットボディはもちろん、ピックアップおよびコントローラー部の穴加工もパーフェクトに再現している。世界のスーパースターおよびオールドギターマニアを驚喜させ続ける、これぞパーフェクトレプリカ（完全技術）モデルの決定版だ。

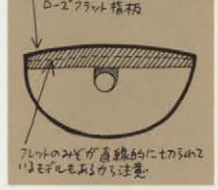
●ネックバック



●ローズアール指板（STオールディモデル）



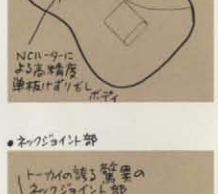
●ローズフラット指板



●ボディ（フロントビュー）

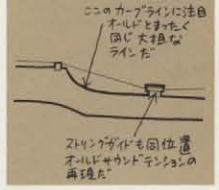
●ボディ（リアビュー）

●ネックジョイント部

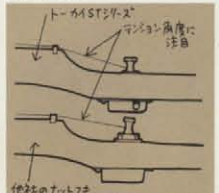


●トーカイクルーソンタイプペグ

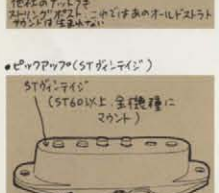
●オールドサウンドテンション



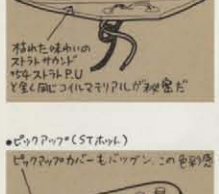
●ストリングポスト



●ピックアップ（STヴィンテイジ）



●ピックアップ（STホット）

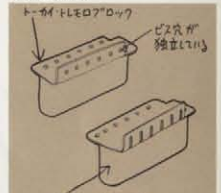


●ペグ：オールドストラトを完璧にコピーする一番大事なところは本当はこのペグにあるのかもしれない。それほどペグの与えるサウンドへの影響そしてフィーリングはすさい。すべてにオールドストラトを完璧にコピーするポリシーはペグにもうぬかれ見事なできばえを見せている。本物本天のクルーソンペグを徹底分析・研究開発した成果が見事に結晶となってトーカイクルーソンタイプペグを完成させた。海外ちらは全国一ながら高性能2枚ギアペグかつきもなく高精度のペグとしてもロトスティックよりも使い易いとゆくべアプロミュージシャンより厚い評価を得たプロジェクトチームの自信作。オールドギターフリークにはもちろん最高のプレゼントとなった。ただなぜプッシュタイプはトーカイとオリジナルだけで、国産のオールドモデルのほとんどが一見クルーソンタイプ風なものの、オリジナルとはかなりも似つかぬロトスティックタイプを使用しているのかだ。よく注意してほしい。トーカイのクルーソンタイプペグはテンションがオリジナルSTストラトおよび'64ストラトと全く同じで、理想的なオールドサウンドテンションを誇っている。これがロトスティックタイプだと、そうはいかない。ロットが表面についているためそのぶんだけ位置が高くなる。という事はどうもなるほどテンションが弱くなり音に微妙な変化をみせオールドストラト特有のサウンドを奏しめない。ギターフリークを自認するミュージシャンなら正統派プッシュタイプしかもロトスティックと同じ性能のトーカイクルーソンタイプを見のがすわけはないヨネ。●ピックアップ：しかし何といっても'54ストラトサウンドそして'64ストラトサウンドをよみがえらせる最大の武器は先に述べたパーフェクトボディ、そして可能性を最大限にひき出すピックアップにある。オリジナルを徹底研究にオールドストラトサウンドを忠実に見返させたSTシリーズのピックアップ2タイプ――〈STヴィンテイジ〉そして〈STホット〉。パーフェクトなハードウェアとガーサタイルなピックアップとのベストマッチングがうまれるサウンドはまさにまた驚嘆。今までのアロドクリストが絶賛するオールドストラトサウンドを生みだしている。●STヴィンテイジ：'54ヴィンテイジサウンドを基礎とし、'54ストラトと全く同じフィルマテリアルを採用した極新ピックアップ。経年変化によって失われた深みのあるトラディショナルトーン、オールド特有のせいパワーをおさえたシャープ・ブライトな高音域、そしてタイトな中音域が集まりだ。まるでこれがオールドのフーリングを満載した新開発ピックアップだ。もちろんポビン、ピックアップのパーツまでパーフェクトレプリカ。特にピックアップカバーは時がたつにつれてオールドカラーそのままに変色し渋みを増す。本物の発・味でまた君の手からオールドが生まれつやく。トーカイはそこまで厳密なのコミュニケートを大事にしている（ST60以上全モデルにマウント）。●STホット：オールディなリリカルサウンドをハイストパフォーマンスで実現した傑作ピックアップ。アルニコ（アルミ、ニッケル、コバルトの合金で強磁性をもってアルニコと呼ぶ）マグネットを採用。コイルマテリアルはSTヴィンテイジ同様、オリジナルと同じだ。ハラハラ合流感を抑えしかり最大限にハイズをおさえ、失のSTヴィンテイジとは一味違った、どっちがいいというシャープでアタッキー、ホットなパワフルなサウンドを生み出す設計となっている。もちろん他の国産最高級クラスのピックアップで決る事はいうまでもない。（ST45・50・55Nにマウント）●ピックガードパネル：ピックガードパネルもまた2タイプ。オリジナルとまったく同じ仕様、同サイズ'54ヴィンテイジモデルにはトライ白点ぬめ、'64オールディモデルにはスクエイ（白・黒白）11点ぬめ、それぞれ採用され、特異のキャラクターを誇っている。このパネルのなかにピックアップ・セレクタースイッチを含むコントロールサーキットをすべてマウント。メインテナンスはもちろんパフォーマンスの高いセクションとしているお年ハ、ぜはリレオ般はは僕たちという他はない。ビスの位置、3アライ仕様のアジャスト部のエガリ等――すべてにオリジナルピックガードをパーフェクトにコピー。細かいハ、おかいがオールドフーリングをもりたてトライショナルモデルを飾がる。●トレモロユニット：ガンジミ・ハンドリックスが1967年モントレー・ジャズフェスティバルのステージで衝撃的なデビューを飾ってその翌にはこのトレモロが大きく貢献している。ファンバックサウンドを体全体でしかも2オクターブモアニング・ダウンさせた驚異のトレモロテクニック、攻撃的で「エキサイティング」なスプリンギーサウンドはその後のロックシーンに多大なる影響を与えた。また、シンクロナイズドトレモロユニットをロックミュージックにはかせない決定的なものとした。STシリーズでは新開発オールドタイプのトレモロユニットを採用。プレスカロエ鋼プレッシュ特殊合金のトレモロユニットおよびトレモロアーム等、そのアニーシングサウンドを100%発揮するにふさわしい仕様となっている。耐久性バツグン。アームはずれ、ネジ山のつぶれ等もまずない……。●ブリッジ：1954年の微妙なストラトサウンドを再現するプレスカロエ鋼プレッシュを採用。オールドのフーリングを全面に打ちだすばかりでなくサウンドそのものの厚音度がオールドのものにさらに増している。プレスカロエ鋼プレッシュとはいえ、トーカイSTシリーズは特殊合金、耐久力もバツグンだ。●ピックアップセレクタースイッチ：新開発3段5ポジションスイッチを採用。国産コピーの5段スイッチのようにガタがなく滑らかなスムーズな切替えと同時にハーフポジションもバッチリ決まりストラト特有のフェイズアウトサウンドも思いのままに。サウンドをクリエイトするうえで一番大事なセクションだけに本家本元のCRL社製スイッチとは若干姿形が違うが、実質本質、機能優先のポリシーがうかがいしれる高精度のスイッチを完成させた。スイッチ4カリ替え時のガリ音や故障、トラブルもこれでバッチリ解消だ。なおモノホン左同のオールドギターマニアにはCRL社スイッチとチェンジすれば完璧だ。ベストチューニングナップとなることは間違いなしだ。●コントロールサーキット部：ここはオールドストラトサウンドをフォローする。かかせないセクションだけに、外部からは見えないが、国産ではまねのプラスシールドプレートを採用。色褪れ加えたって安定したシールド効果を発揮する。配線構造の際もハンダごての熱、ハンダの流れ方等（ビギナーキッズにあっちゃいけないあるがネ…）によるバリアブルレジスターの性能を低下させない配慮がなされ、ピックアップおよびコントローラー部の穴加工もパーフェクトに再現している。世界のスーパースターおよびオールドギターマニアを驚喜させ続ける、これぞパーフェクトレプリカ（完全技術）モデルの決定版だ。

●ピックガードパネル

●プレスブリッジ

●トレモロブロック



●セレクタースイッチ

●コントロールサーキット